

討ち入りの現場



吉良邸跡

	所要時間▶約3時間
① 両国駅	徒歩——9分
② 吉良邸跡	両国大川屋
③ 回向院	徒歩——6分
④ 両国橋	徒歩——3分
⑤ 一之橋	徒歩——10分
⑥ 江島杉山神社	徒歩——2分
⑦ 新大橋・御船蔵跡	徒歩——8分
⑧ 芭蕉庵史跡展望庭園	徒歩——30分
⑨ 芭蕉稲荷	徒歩——1分
⑩ 深川神明宮	徒歩——15分
⑪ 森下駅	徒歩——4分

両国駅を出発して、赤穂事件のクラ イマックスともいえる吉良邸跡とその 周辺をめぐるコース。このコースは、 浪士たちの引き揚げコースとも一部重 なり、見所が多い。

一 吉良邸跡

両国駅東口を出て京葉道路へ進み、住宅街に入っていくと、前方に海鼠壁 が見えてくる。吉良上野介邸跡地の一 部につくられた本所松坂町公園だ。実 際の吉良邸は、公園の数十倍の広さ。 今の両国3丁目6～11番地全域と13～14 番地の南半分を占めていたという。



▲吉良上野介邸。屋敷は一周10分くらい。歩いてみると、その広さかわかる

園内には、吉良邸内にあったという 井戸や稲荷神社、討ち死にした吉良家 家臣の供養碑などがある。壁面にも、 討ち入りを描いた錦絵や「吉良上野介 邸図」がパネルで展示されている。

討ち入りと吉良邸のその後

吉良上野介は、松の廊下の刃傷事件 後、この地に移り住んだ。もとは松平 何某という旗本の屋敷で、総面積2550 坪という広さ。そのため、赤穂浪士た ちは、邸内に侵入してからも、なかなか 上野介の居所を発見できなかったとい う。さんざん探しまわったあかげく、 台所横の炭部屋に隠れていた不審な老 人を発見し、討ち取った。最初、それ が上野介だとわからなかった。誰も 顔を知らなかったためだが、額と背中の 古傷を確かめ、門番に確認させてよ うやく上野介だとわかったという。



優しいお殿様

老翁、貪欲、見栄っ張り、狹量など など、数え上げればきりがないほど悪 し様にいられている吉良上野介だが、 意外にも領地三河（愛知県）では領民 から「気さくで優しいお殿様」と慕わ れ、評判がよかったらしい。洪水に苦 しむ領民のために、私財を投じて「黄金堤」を築堤したり、新田開発や寺社 への寄進なども行ったりしたといわれ ている。

愛知県吉良町には「吉良の赤馬」とい う郷土玩具があるが、これは赤馬に 乗って領地を視察した上野介をのん で作られたものだそう。

薄幸の人

吉良義周は、米沢藩主上杉綱憲の次 男で、上野介の孫にあたる。4歳のと きに上野介の養子になり、16歳で家督 を継いだ。討ち入りの際には必死に応 戦して、あばら骨が折れるほどの深手 を負った。しかし事件の翌年には領地 を没収されたうえ、信州高島藩主諏訪 安芸守にお預けになった。

義周の配所で暮らした後は悲惨なもの だったという。着替えはおろか、入浴 も、髭を剃ることさえ自由にならな かった。過酷な幽閉生活で次第に衰弱 していき、宝永3（1706）年に病死。 まだ21歳の若さだった。



▲吉良邸跡に残る首洗い井戸。上野介の首を洗ったと伝えられている

本懐を遂げた浪士たちは、全員の無 事を確認し、邸内の火の始末をして裏 門から退出したといわれる。

吉良邸は事件後、幕府に没収された が、武家から嫌われて住む者はいなか った。江戸時代の末、いくつかに分割 されて町屋になったそう。